



Since
1965 Creativity
and
Curiosity

福井高専

青武台だより

令和2年
3月19日発行
NO.221

独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校
National Institute of Technology(KOSEN), Fukui College

文化のひかり
充つる地に



CONTENTS

- | | |
|-------------------|---------------|
| P2 ▶ 卒業生・修了生に贈る言葉 | P20 ▶ 校外研修 |
| P4 ▶ 卒業生クラス紹介 | P22 ▶ 文化体験日 |
| P9 ▶ 修了生クラス紹介 | P23 ▶ 中学校だより |
| P11 ▶ 学生の将来と進路 | P24 ▶ 退職にあたって |
| P13 ▶ 活躍する仲間 | P26 ▶ 学校通信 |
| P18 ▶ 研修旅行 | |

Special Interview

～卒業生・修了生に贈る言葉～



卒業・修了おめでとう

校長 田村 隆弘

本科5年の教育課程を終えられた5年生189名と専攻科課程を修了された専攻科2年生19名の皆さん、卒業、そして、修了、おめでとうございます。5年生の中にはマレーシアからの留学生4名も含まれていますが、心からお祝い申し上げます。

ぜひ、人生の次のステージでも福井高専を卒業したという自信と誇り、すなわち自負をもって何事にも前向きに臨んでください。本校を卒業して、地元で働くことを選ばれた方もいるでしょう。あるいは、福井を離れる方もおられるでしょう。でも、ふるさと福井を大切にしてください。福井以外の地域からここに来て学んだ人も、どうか、ここを第二のふるさととして大切にしてください。地域は、皆さんが帰ってきてくれることを必ず歓迎します。

本校の先生は、皆さんを5年間、あるいは7年間、時に優しく、また時に厳しく指導したことでしょう。それは、ひとえに皆さんに自立を促す一つの術であったはずです。皆さんが、何年かのうちに、「この学校は、厳しかった。」と懐古されることを、私たちは臆することなく想像します。しかし、その「厳しかった」の後に「でも、そのおかげで力がついた。」という言葉が続くことを期待しています。皆さんは、この高専で多くの知識や技術という決して他人から奪われることのない財産を身につけられました。加えて、友人という生涯の宝物も得られたでしょう。これらは、間違いなく皆さん自身の財産であり宝物です。

今、日本の社会はSociety 5.0の時代、すなわち、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会といった4段階の

社会変化を遂げて、新たに人工知能や超高速通信技術などを活用した創造社会に突入したといわれています。ぜひ、皆さんが福井高専で手に入れた財産を糧に、来るべき未来、情報化がさらに進む社会やグローバル化が進む社会を、より豊かにする感性豊かな人として活躍してください。「人生は、一生涯、学習の場、修行の場」とも言います。新たな人生においても、必要な知識や技術をさらに高めるために、学習し続けることが大切です。

「人生において最も大切なものは、見えないけれどもすぐそばにある」とも言います。家族からの惜しみない愛情や、恩師からのアドバイス、友と交わす友情、地域や社会の支援、あるいは、自然の恵みなど、当たり前にそこにあると感じてしまいがちなものを有難いと感じ、感謝を忘れてはいけないということでしょう。「有難い」には、「そこに有るものを見識し難い」という意味もあるかと思います。そして、今度は、皆さんがそうした愛情や支援を送る立場になるということです。皆さんが、これまで学んだ技術や知識をもって自立し、社会を支える一員になるということです。これから自分自身のライフイベントも含めて、いろいろな課題や苦難に立ち向かわなくてはならないと思います。しかし、チャンスは、ピンチの顔をしてやって来るという言葉もあります。大切なのはプラス思考。苦難に立ち向かうときこそ、活路は、冷静さとプラス思考によって見いだされます。ぜひ、これから出会う困難にくじけることなく、輝かしい未来を創造してください。皆さんの活躍は、私たち教職員の夢や希望でもあります。皆さんと共に学んだ時間は、私たちの宝でもあります。皆さんのですますの発展とご活躍をお祈りして、卒業ならびに修了に向けた告辞といたします。

Special Interview



教育後援会会長 吉谷 信彦

これからも挑戦は続く

卒業並びに修了を迎える本科及び専攻科の皆様おめでとうございます。教育後援会を代表して心からお祝い申し上げます。

進学先に高専を選択し最初は不安もあったかと思いますが、在学中は勉強や部活動、課外活動を通して達成感、時に挫折感を味わいながらも一生懸命に前へと進み学んだと思います。そしてご家族や先生方はもちろん多くの先輩・後輩・友達との関わりを通して沢山の事を学んだと思います。これから社会人として就職、大学生・

～卒業生・修了生に贈る言葉～

専攻科生として進学と立場が変わっても学ぶ事に終わりはありませんので優れた技術者、研究者を目指して頑張ってください。

これからも様々な挑戦をする皆様に、私が好きな将棋の羽生名人の言葉を引用して贈ります。

「何かに挑戦したら確実に報われるのであれば、誰でも必ず挑戦するだろう。報われないかもしれないところで、同じ情熱、気力、モチベーションをもって継続しているのは非常に大変なことであり、私は、それこそが才能だと思っている。」

今後、思い描いた未来を実現するだけではなく、物事が簡単にいかない時が何度もあると思いますが、皆様が福井高専で学んできた事に誇りを持ち挑戦し続けて活躍する事を心から願っております。



進和会会长 野嶋 祐記

輝かしい門出に

卒業並びに修了を迎える本科及び専攻科の皆様、おめでとうございます。進和会を代表して心からお祝い申し上げます。

本科では大学工学系学部卒業と同等の内容を、専攻科においてはより高度で幅広い専門知識と技術を学ばれました。そして、実践的エンジニアとして立派に成長されました。これから社会は情報通信技術の進化により様々なものや環境が大きく変わり、今まで想像もできなかつたことが現実となるなど身近な日常生活でも変化が見られるでしょう。社会人として更に研鑽を積み活躍して下さい。

これから社会人としていろいろな場面で悩むことや時には泣きたくなる時もあるでしょう。技術革新が目覚ましいスピードで進み、あらゆる面で便利すぎて人間らし

さを見失ってしまいそうに感じる時もあるかもしれません。このような時だからこそ人間として大切なことを見直していただきたいと思い、稻盛和夫氏の「生き方」という本を紹介します。これは15年前に書かれたのですが「混迷の時代だからこそ生き方を問い直す」とプロlogueで始まります。正しい生き方とは、難しいことではなく、ごく当たり前の道徳心であり、嘘をつくことなく、正直である、人をだましてはいけない、欲張るな、そういうシンプルな規範の意味を改めて考え直し、それをきちんと遵守することが今こそ必要と書かれています。そして、心を磨くために必要な「六つの精進」が大切として①誰にも負けない努力をする②謙虚にして驕らず③反省ある日々を送る④生きていることに感謝する⑤善行、利他行を積む⑥感性的な悩みをしない、と書かれています。

どれだけ技術が進んでも自分を見失うことなくエンジニアとして高専魂を持って社会に貢献していただけることに期待いたします。

機械工学科



～卒業生クラス紹介～



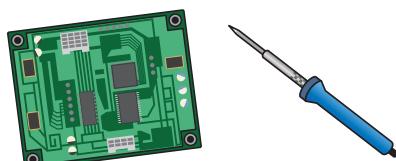
機械工学科5年担任 **田中 嘉津彦**

人事を尽くして天命を待とう

僅か1年間という短い期間でしたが、縁あって担任の立場で本校卒業という皆さんの成長に接することができたことは、教員冥利に尽きるといっても過言ではないでしょう。

皆さんのが抱いた将来の夢の実現のためには、各人の努力と能力は勿論、周囲の理解、協力・支援は、それ以上に重要かつ不可欠で、大きな財産にもなります。一人の人間にできることには得手、不得手もあり、さらに時間的制約も加わります。本当に困った時は、常日頃からの人間関係が砦になります。礼儀正しく、謙虚に他者の意見にも耳を傾け、真摯に取組むことで人間性も向上し、必ずよい天命も訪れます。これまで経験したことがない困難や挫折を感じることが幾多もあるでしょうが、信念をもって邁進してください。そして、よい天命が訪れた暁には、是非ともその逸話を聞かせて下さい、そのような話しが学校関係者にとっても新たな活力になりますから…。

皆さんのがそれぞれに抱いた夢に向かって着実に進まれ、いつの日か見事にそれが成就されることを願ってやみません。



機械工学科5年代表 **山田 燐**

福井高専の思い出

私はこの福井高専での5年間でたくさんの思い出ができました。この5年間で特に印象に残っているのは友達との思い出です。

私のクラスは差別をせず、みんなが仲良く話せるステキな人たちばかりです。私がそう思ったのは4年生のときです。機械工学科の4年生は、高専生活で最も課題が多いと言われています。それを進路決定、インターンシップ、体育祭の応援団などのイベントがたくさんある中でこなしていくかといけないので、非常に忙しかったのを覚えています。しかし、クラスの成績上位の友達が課題を教えてくれ、試験勉強も手伝ってくれました。4年生の成績は、進学や就職に大きく影響するため普通は勉強を教える暇はないはずなのに、たくさんの友達が親切にわかりやすく教えてくれました。

旅行や遊びにもよく行きました。クラスの友達とボーリングで勝負したり、春休みに温泉に行ったり、クラスメイトの家でお泊まりしたりしました。そこでまじめな話やくだらない話をして、たくさん笑い、友情を確かめ合いました。その何気ない日常が私のかけがえのない宝物です。

この5年間で私はたくさんの大切な友達、思い出、知識を得ることができ、機械工学科で送った学生生活は最高でした。この学校を卒業しても5年間の思い出は忘れることがありません。

電気電子工学科



～卒業生クラス紹介～



電気電子工学科5年担任 丸山 晃生

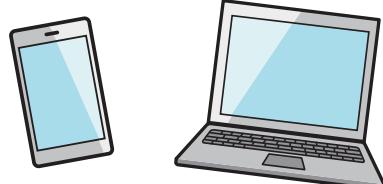
打って反省、打たれて感謝

卒業生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業を心よりお喜び申し上げます。担任する度に、初めて経験することが多く、私自身が成長する機会を得ることができ、大変感謝しています。卒業生の皆さんには、時に厳しく、時に諭すように接してきました。受け取り方は様々ですが、少しでも意図した通りに伝わっていれば幸いです。

さて、剣道には「打って反省、打たれて感謝」という教えがあります。「打って反省」とは、自分が相手を打って技を決めた時に、自分は正しい心と形で打ち込めたか省みることです。「打たれて感謝」とは、自分が技を決められ打たれた時に、自分の隙や至らぬ点を教えてくれた相手に感謝することです。

皆さんが進む道は様々です。それぞれの道において、成功しても失敗してもその過程を省みて、「打って反省、打たれて感謝」という言葉を思い出してください。自分の行動を反省し、相手に敬意を払い、謙虚であり続けて欲しいと思います。

今後の皆さんの活躍を期待しています。



電気電子工学科5年代表 中山 太一

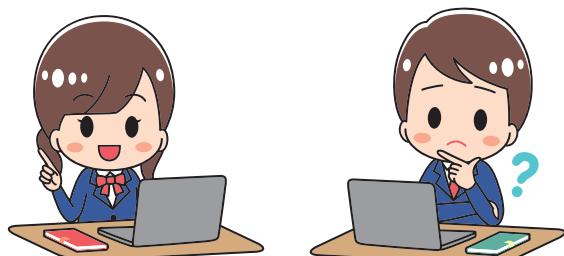
高専での5年間

もうすぐ卒業です。私の福井高専での5年間というものは、本当に短く感じられたと共に、これまでの学校生活の様々な思い出が蘇ってきます。

初めて皆が集まった日、2年生から今の電気電子工学科だけのクラスとなり、私は少し不安でした。しかし、普段の学校生活や様々な学校行事を重ねていく度に、このクラスの良さが分かり、皆と一緒に居られることに幸せを感じるようになりました。2年生からの4年間で、思いやりや結束力が強みの誇らしいクラスになったと感じています。

また、この束の間の5年間で、クラスの仲間たちと忘れられない思い出を作ることが出来ました。そして、私達は学業・人物共に大きく成長できたと感じています。

最後に、我々の成長は、クラス担任の丸山晃生先生を始めとする多くの教職員の方々の手厚いご指導があったからこそだと感じております。本当にありがとうございました。これからは、福井高専で培った知識や技術力を糧に、今後とも精進してまいります。



電子情報工学科



～卒業生クラス紹介～



電子情報工学科5年担任 小松 貴大

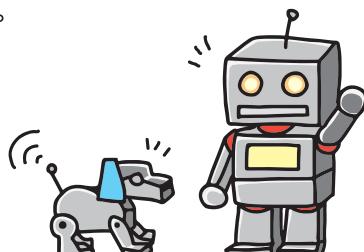
卒業生に贈る言葉

卒業に際して気の利いた言葉でも残せれば良いのですが、あいにくそのような語彙力は持ち合わせておらず、今までの経験から学んだことを伝えたいと思います。

社会に出てからもそうですが、常にイノベーターであり続けてください。日本語に訳すると革新者という意味ですが、分かりやすく言えば、情報感度が高く、新しいものを積極的に導入する好奇心を持った者のことです。

この世の中は常に何か新しいものが生まれ続けています。特に情報技術の分野ではそれが目まぐるしいスピードで進んでいきます。スマートフォン、アプリ、電子マネーなど、気づいたらあっという間に次の段階へ進んでいます。まだ学生を続ける人も社会に出て働く人も言われたことだけを淡々とこなすだけにならないでください。

イノベーター理論では、イノベーター、アーリーアダプター、アーリーマジョリティー、レイトマジョリティ、ラガードと5つに分類しており、一概にイノベーターが良いとも言えませんが、成功する人の多くは何かを最初にはじめた人なのです。



電子情報工学科5年代代表 山浦 直樹

懇篤なる援助

1年のときは予想もしなかった20歳の像が、ようやく身近なものとなった。自覚がないだけなのかもしれないが、私だけ5年前と大して変わっていないような気がする。それだけまわりが立派な大人になっている証拠である。しかし、これらは私に不足している知識経験が何なのかを認識することができたともいえる。5年間の高専生活はうんざりするほど長かったと感じているが、ふと気づけば、何故か私は勝手に体がC++やHaskellを求めている優秀なクラスメイトの近くにいるのである。実に不思議である。

いま、冷静に振り返ると、私以外は就職や進学のための準備が終わっていて、福井高専を思い残すことなく卒業できそうに見える。では私はというと、「先生への感謝」の気持ちの準備がまだ終わっていないのである。卒業するにあたって寂しさは感じていないが、数多の恩人へのお礼ができていない。そのための時間はもっと欲しいと感じている。

高専で最も学べたことは手を動かすための技術でも知識でもなく、特に私に不足している人間の大前提の要素なのかもしれない。

物質工学科



～卒業生クラス紹介～



物質工学科5年担任 **高山 勝己**

卒業生に贈る言葉

5年物質工学科の皆さん。卒業おめでとう。この原稿依頼を受けてから2週間余り、君たちにどんな言葉を贈ろうかと考え続けてきました。そして思い浮かんだのが、「過ちて改めざる、是を過ちと謂う」と、「過ちては則ち改むるに憚ること勿れ」でした。孔子の言葉(論語)です。

前半は、完璧な人なんていない。人は本来過ちを犯すものだ。本当の過ちというのは、過ちを犯したことを認めないで改めようとしない態度にあるという意味です。そして、後半は、自分の過ちを認め改善することは、決して恥ずかしいことではない。今後の人生教訓とすればよいという意味です。

私もこれまでの人生において、多くの過ちを犯してきました。しかし幸いかなその都度、厳しく諭してくれる多くの指導者に恵まれてきました。皆さんもこれから社会に出て職場の上司に、大学であれば指導教員から厳しい叱責を受ける事があると思います(ない方がむしろ問題と思うべきです!)。そんな時は、素直な心で受け止めて欲しいと思います。そして自分を叱ってくれる人に感謝しましょう。

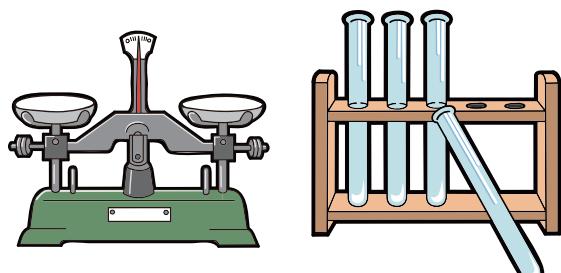
今回は半年というあまりに短い期間でしたが、皆さんの担任がきて本当によかったです。またいつでも遊びに来てください。

物質工学科5年代表 **代名 陽人**

高専という選択

この5年間でレポートやテスト、学校行事での仕事など多くの困難がありました。ときには心が折れたり憎しみや怒りが溢れ出たこともありましたが、クラスのみんなと協力したり一生懸命努力して困難を乗り越え、卒業までたどり着くことができました。それらを通して国語や数学のような一般科目、化学などの専門教科、実験操作や実験器具の使い方といった勉学に加えて、修学旅行や高専祭、体育祭などの学校行事の楽しさやコミュニケーションの大切さなどといった生きていく上で大切なことも知ることができたと思います。高専という空間で過ごしたこの5年間はもう帰ってすることはできませんが、これから的人生において高専で学んだ多くのことを活用して生きていければと思います。

最後になりましたが本学校を卒業するにあたり5Cのクラスの皆様、先輩、後輩や先生方からは多くのご支援とご協力を賜りました。ここに感謝の意を表します。



環境都市工学科



～卒業生クラス紹介～



環境都市工学科5年担任 橋口 直也

一步前へ進む君たちへ

ご卒業おめでとうございます。

担任となってからのこの3年間は毎日と言っていいほど顔を合わせ本当に多くのことを話しました。この3年間一日も君たちのことを考えなかった日はなかったと思います。もう考えなくてもいいと思うと「ホッ」とする気持ちがある一方寂しい気持ちで一杯です。

高専を卒業し、企業や大学など次のステージへ進む君たちへ最後にどのような言葉を贈ろうか悩みましたが、社会人の先輩としては「自分の足で立ち、前を向き、前へ進んで行ってください。」という言葉を贈りたいと思います。そして、担任としては「何事に対しても努力している者であれば、もし難しい問題に直面したとしても周りの人たちが必ず手を貸してくれます。」という言葉を贈りたいと思います。少なくとも、私は担任であった者としていつまでも君たちに手を差し伸べるつもりです。

この5年間の高専生活で経験してきたことを糧に自分たちの道を切り拓いて行ってください。応援しています。たまには、学校に元気な姿を見せてくださいね。



環境都市工学科5年代表 大原 裕也

高専で20歳を迎えて

家族や友達など多くの人に支えられて卒業を迎えることができ大変嬉しく思います。これからは大人として自立して行動しなければいけないと思うと身が引き締まる思いです。生まれてからここまで育ててくれた両親には感謝の気持ちでいっぱいです。20年間支えてくれた両親、進路について考えてくださった先生方、そして一緒に青春を謳歌した友達など多くの人に恵まれました。今の自分があるのは、周りの人に支えられてきたからだと強く感じます。

気づいたら卒業生になり、この5年間を振り返るとこの学校では多くの知識を蓄えることができました。高専での生活は自分にとってかけがえのないものとなりました。また、来年度からは社会に出て働くことになります。私の仕事は橋梁関係であるため、人々のくらしを支えるということを意識し、仕事に向き合っていきたいです。

これから社会で生きていくには必ず“責任”が伴うようになってきます。一人の社会人としての責任と人を思いやる優しい心を持ち、名実ともに大人と認められるよう、自分を磨き精進していきたいと思います。

生産システム工学専攻

～修了生クラス紹介～



生産システム工学専攻主任 加藤 寛敬

修了生に贈る言葉

専攻科修了生の皆さん、おめでとうございます。いよいよ皆さんは新しい世界に出発することになります。それぞれの就職先や進学先に期待を膨らませていることでしょう。しかしながら、実際に足を踏み入れてみると、「この会社で本当に良かったのか」、「もっと自分に合った場所が他にあるのでは」と不安に思うことがあるかもしれません。

そんな時、まずは目の前のこと真剣に取り組んでください。自分が今いる場所や与えられた立場で全力を尽くしてみてください。どんな仕事にも面白いこともあります。むしろ、どんな仕事に就いたかということよりも、仕事にどう向き合うかの方が大事なのです。

私たちはすぐ、派手なこと、目立つことに目を奪われてしまします。しかし、たとえ自分が望んでいた場所でなくとも、目の前の仕事を一生懸命する、自分自身が置かれたその場所で精一杯努力することこそが大切なのです。それを続けると、その場所でいずれ第一人者に成長します。そうすると見えてくる世界が一気に広がるでしょう。

生産システム工学専攻2年 長谷川 謙

専攻科という場所

私は電気電子工学科から専攻科に入学しました。大体の人がそうだと信じたいのですが、やはり新しい環境は大なり小なり不安を覚えるものです。その点、専攻科は今までの環境と変化が少なく、入学当初の4月を気楽に迎えることができたと記憶しています。専攻科1年の授業では、その殆どがグループワークでした。他学科の人たちと関わる機会は本科時代では多くありません。このグループワークの嵐は他学科との交流という意味でも非常に有意義なものでしたし、いつの間にか気の合う友人もできていました。2年では1年のグループワークの嵐は鳴りを潜め、その分研究に専念することになりました。専攻科における研究は本科から引き継ぐ場合が殆どですので合計で約3年間、同じ研究を続けることができます。これは専攻科の大きな利点だと思います。

入学したことを少し後悔したこともありましたが、友人たちや先生たちのおかげで楽しく愉快な学生生活を送れました。有難う高専！さようなら高専！



環境システム工学専攻

～修了生クラス紹介～



環境システム工学専攻主任 吉田 雅穂

流れのコントロール

専攻科修了、おめでとうございます。

君たちが専攻科に入学した時の青武台だよりに『時の巡り合わせを利用しよう』というメッセージを贈りました。この2年間、例えば福井国体や東京オリンピックに向けて県内外で様々な技術やサービスの革新が生まれ出され、都市の利便性や快適性、安全性が大きく変わる様を君たちは目に見てきました。これからは君たちが新たな社会に身を置いて、技術やトレンドを創り出す側になります。

専門だけにとらわれない融合・複合されたカリキュラムの中で、自主的、能動的、創造的に課題に取り組む力を身につけ、ものづくり・環境づくりの得意なエンジニアの卵の君たちには、そのために必要な基礎能力が備わっています。自信を持ってください。

一方、多様化して複雑過ぎる現代社会では、新たな技術やトレンドを生み出すことは容易ではありません。壁にぶち当たった時は、時の流れ、運命に身を任せてみてください。自ら動くか身を任せるか、見極めは難しいですが、オンとオフ、メリハリ付けることが良いと思います。抽象的ですが今後の参考になれば幸いです。結びに、この専攻科修了の節目に、君たちが友人や家族と過ごした高専時代の良き思い出が末永く心に残ることを願っています。

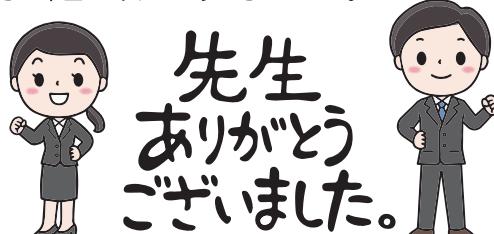
環境システム工学専攻2年代表 有田 翔

7年間の高専生活

私たちが福井高専に入学してから早いもので7年も経ちました。入学してから今日に至るまで、色々な事がありました。特に専攻科での2年間はあつという間でした。

専攻科では、グループ学習の授業が多かったことから、他学科の学生と交流する機会が増えました。一緒に作業することで、様々な視点から物事を考えることができました。特に授業の一環として行われた、企業との共同プロジェクトはこれから就職して社会人になる私にとって、とても大きな刺激になりました。幅広い視野を持って考える思考力、グループとして動くことの協調性、聴衆にとってわかりやすい発表するパフォーマンス力を身に付け、発揮できました。また、専攻科の授業で得た能力は特別研究にも活かすことが出来ました。

これから私たちは、社会人として7年間で得た様々な力を武器に、精一杯精進したいと思います。最後になりましたが、今まで指導していただいた先生方、出会ってくれた皆さん本当にありがとうございました。



～学生の将来と進路～

令和元年度 進路内定状況報告

キャリア支援室長 加藤 寛敬

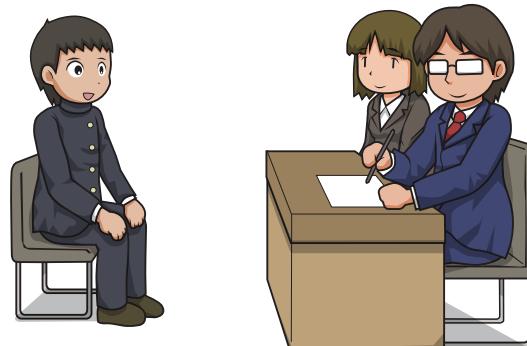
本年度の本校の就職希望者の割合は61%で、その内県内希望者は37%となり、いずれもほぼ例年どおりでした。また、政府が発表した就職活動スケジュールは前年度と同じで、広報活動の解禁が3月、採用活動の解禁が6月でした。しかしながら、実質的な採用活動を前倒しで実施しているケースが多くみられました。

本校への求人数はのべ5,483社で、前年度と比較して若干増加しました。また、全体の求人に占める県内企業の割合は12%で、県外企業の採用意欲が高い状況は変わりませんでした。米中貿易摩擦やオリンピック開催後の反動から今後の経済情勢は不透明ですが、慢性的な人手不足からこの高い求人倍率はしばらく続くと思われます。

一方、進学の状況では、本科の進学希望者は、専攻科進学が29名、大学編入学が45名でした。本年度は、複数の難関大学に合格する学生もいました。専攻科から大学院への進学希望者は2名で、例年より少ない人数でした。なお、専攻科・大学・大学院入学試験の合格者の内、推薦が66%でした。

最近の就職採用の傾向として、企業側がインターンシップに力を入れており、早い時期から学生と接触したいという意図がみられ、就職採用活動が全体的に早まってきています。しかし、焦りから安易に進路希望先を決めてしまうことは禁物です。早く内定をもらうことよりも、本当に自分に合った進路を選ぶことの方が大切です。そのためには、早くから進路について考えいろいろな人に相談し準備すること、視野を広くもって自分を見失わないことが必要です。就職活動を通して「自分は何者だろう」と見つめ直すことで、大きく成長します。

最後に、本校のキャリア教育にご尽力いただいている関係教職員および保護者の皆様に、厚く御礼申し上げます。



令和元年度 進路内定状況

令和2年 1月25日現在

学科	区分	卒業・修了予定者数	進学希望者数	内定者数			未定者数	就職希望者数	内定者数		未定者数	その他
				大学・大学院	専攻科	その他進学			県内	県外		
本科	機械工学科	34 (3)	15	10	4	1	0	19 (3)	4 (1)	15 (2)	0	0
	電気電子工学科	40 (8)	17 (2)	11 (2)	4	2	0	23 (6)	5 (1)	18 (5)	0	0
	電子情報工学科	36 (4)	11 (1)	3	8 (1)	0	0	24 (3)	9 (1)	15 (2)	0	1
	物質工学科	38 (13)	20 (6)	13 (4)	7 (2)	0	0	17 (7)	10 (3)	7 (4)	0	1
	環境都市工学科	41 (12)	14 (5)	8 (3)	6 (2)	0	0	27 (7)	12 (3)	15 (4)	0	0
	小計	189 (40)	77 (14)	45 (9)	29 (5)	3	0	110 (26)	40 (9)	70 (17)	0	2
専攻科	生産システム工学専攻	11 (2)	2 (1)	2 (1)			0	9 (1)	3	6 (1)	0	0
	環境システム工学専攻	8 (2)	0	0			0	8 (2)	4 (1)	4 (1)	0	0
	小計	19 (4)	2 (1)	2 (1)			0	17 (3)	7 (1)	10 (2)	0	0
合計		208 (44)	79 (15)	47 (10)	29 (5)	3	0	127 (29)	47 (10)	80 (19)	0	2

※表中の()は女子数で内数

～学生の将来と進路～

令和元年度 大学編入学試験・高専専攻科入学試験合格状況

令和2年1月25日現在

大学等	学部等	学科	機械工学科		電気電子工学科		電子情報工学科		物資工学科		環境都市工学科		合 計	
			推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力
室蘭工業大学	工 学 部									1				1
秋田大学	理 工 学 部		1											1
新潟大学	工 学 部			1									1	
長岡技術科学大学	工 学 部	1		2 (1)	2						1 (1)		4 (2)	2
信州大学	工 学 部								1					1
群馬大学	理 工 学 部				1 (1)									1 (1)
千葉大学	工 学 部			1		1							2	
電気通信大学	情報理工学域	1											1	
東京工業大学	工 学 院				1									1
東京農工大学	工 学 部	1							1 (1)				1	1 (1)
富山大学	工 学 部						1							1
金沢大学	理 工 学 域	2		1			1				1		4	1
福井大学	工 学 部	1	1	1		1		2 (1)	2 (1)	1 (1)	1 (1)	6 (2)	4 (2)	
名古屋大学	工 学 部				1									1
豊橋技術科学大学	工 学 部	3		1 (1)	1		1	3 (1)	1 (1)	3		10 (2)	3 (1)	
京都大学	工 学 部				1									1
京都工芸繊維大学	設 計 工 学 域				1									1
	応用生物学域							2					2	
大阪大学	工 学 部				1									1
	基 础 工 学 部								1					1
三重大学	工 学 部				1									1
工学院大学	建 築 学 部									1		1		
海上保安学校	情報システム課程				1									1
岐阜高専専攻科	先端融合開発専攻				1									1
福井高専専攻科	生産システム工学専攻	4		3	1	7 (1)	2						14 (1)	3
	環境システム工学専攻							7 (2)	2	6 (2)			13 (4)	2
合 計		13	2	10 (2)	13 (1)	9 (1)	5	14 (4)	9 (3)	13 (4)	1 (1)	59(11)	30 (5)	

※表における合格者数は延べ人数を表す。()は女子で内数。

令和元年度 大学院入学試験合格状況

令和2年1月25日現在

大学院	専攻	生産システム工学専攻		環境システム工学専攻		合 計	
		推 薦	学 力	推 薦	学 力	推 薦	学 力
北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科			2 (1)				2 (1)
福井大学大学院工学研究科		2 (1)				2 (1)	
合 計		2 (1)	2 (1)			2 (1)	2 (1)

※表における合格者数は延べ人数を表す。()は女子で内数。

Special Interview

～活躍する仲間～

物質工学科3年 渡辺 純晴

「プレコン」参加報告

私たちは、2020年1月25、26日に行われた第13回全国高専英語プレゼンテーションコンテストチーム部門で優勝し、文部科学大臣賞を頂くことが出来ました。

今回、私たちのご指導に当たって下さった吉田三郎先生は「プレゼンを通して将来使える英語表現を身に着けてほしい」と放課後、土日祝日をも含めて、約4ヶ月間毎日私たちに寄り添って下さいました。どうすれば英語で自分の気持ちを伝えられるかを丁寧に教えて下さった先生との練習の日々は、とても大変でしたが本当に楽しかったです。

また、3年生全体にアンケート調査や、クラスメート達も協力してくれた実験風景などの映像のおかげで、オリジナリティあるパワーポイントスライドを作成できました。

本番当日は、プレコンOBの先輩方も駆け付けて、緊張で固まっていた私たちを励まして下さり、審査員のみならず、会場の皆様からも好意的な評価を頂くことが出来ました。応援して下さった多くの方々に心より感謝いたします。本当にありがとうございました。



機械工学科3年 松山 亮太

全国大会について

私たちは全国高等専門学校ロボットコンテスト東海北陸地区大会にて、審査員推薦枠として11月24日に国技館で行われた全国大会に出場しました。今回の競技は、洗濯物台に置かれたTシャツ・タオル・シーツを回収し、1m・1.5m・2mの物干し竿に干し得点を競い合います。

今回のBチームは「Super Silvers」というチーム名で出場しました。制作したロボットは2台で手動ロボットの「ウォッシングO.G3」と自動ロボットの「JAVAJA ver.3」です。

全国大会では地区大会で披露することが出来ていたロボットの動きを行うことが出来ず、結果1回戦で敗退となってしまいました。

しかし、全国大会に出場したことで毎年全国大会に出場している強豪校等からロボット製作のノウハウなどを知ることが出来、部員にとって良い経験になったと思います。来年も全国大会に出場出来るように取り組んでいきますので応援よろしくお願いします。

生産システム工学専攻1年 渡辺 虎生太

デザコン全国大会に参加して

先日、東京で開催された高専デザコンのAM部門に参加してきた。AMとはAdditive manufacturingの略であり、端的に言うと3Dプリンターを用いた加工技術の事を指す。今年のテーマは社会的弱者に向けたスポーツ支援アイテム開発であった。私たちのチームは隻腕の方に向けたトス上げ用の義手を開発した。個人的には高度な設計手法を多く取り込んで作った珠玉の一品であったつもりだが、いざAM部門の会場に到着して他校の作品を見ると、そのレベルの高さに驚いた。私は今回のデザコンで初めて全国の高専生と交流したが、全国という規模で見た時の他人のレベルの高さを思い知った。「世の中には山ほど人がいるのだから自分より優れた技術者なんていくらでもいるだろう」と何となく考えていたが、実際に目の当たりにすると、彼らのような技術者と競うことの過酷さを理解したのである。結果としては私たちのチームは第3位で審査員特別賞を受賞した。しかし、この結果はかなりの僅差であったと私は考えている。将来の競争相手を見る事ができるいい機会であった。

Special Interview

～活躍する仲間～

電子情報工学科3年 佐野 友亮

Hokuriku Innovation Trial-2019(HIT2019)に参加して

私たちは、2019年11月に、「Hokuriku Innovation Trial-2019」のキャンパス部門に出場しました。HIT2019は、ICTを利活用した技術・商品・サービスのアイデアやビジネスプランを事業性の観点から競うコンテストです。今回、私たちは「ハピット」という歯の健康チェックアプリのプロトタイプを開発しました。初めてのチーム開発ということもあり大変な点も多くありましたが、学校では学べない開発の楽しさや事業の難しさを知ることができました。

本選ではプレゼンテーションを行い、優秀賞およびNICT賞を受賞し、また「日本ビジネスデザイン全国発見＆発表会」および「起業家甲子園」の挑戦権も獲得できました。

最後に、私たちがHIT2019に参加し、賞を受賞できたのも担当の先生や応援してくださった方々の協力があったからこそだと考えています。今後出場するコンテストにおいて今回得た経験をもとに頑張っていきたいと思います。今後とも応援よろしくお願いします。

電気電子工学科2年 根本 真響

2019全日本ARDF競技大会に参加して

突然ですが、ARDFという競技をご存知でしょうか?日本国内ではマイナーなスポーツですのでご存知の方は少ないと私はいます。ARDFとは山や草原など自然豊かなフィールド内に隠された5個から10個の発信機が多く、そして早く発見し、制限時間内にゴール地点に帰還するといった、送信機の探索数と時間が競われるスポーツです。一聞すると簡単に感じられるかもしれません。が、実際には発信機からの電波を受信して方向を探るスキル、地図を読み地形を把握する技術、自然そのままの地形を走破する体力などの要素が求められる競技であると言えます。

昨年10月に北海道で行われた2019全日本ARDF競技大会では、多くの選手が参加する中、私はスプリント競技M19クラスで優勝し、4B酒井大翔さん(クラシック競技M21クラス2位)、4C川井麻矢さん(クラシック競技・スプリント競技W19クラス各2位)も入賞しました。そして3名とも校長特別賞をいただくことができ、大きな励みになりました。この大会の成果を糧に、来年や再来年の全日本大会でも連覇を目指して練習を重ねていきたいと思います。

* * * * 令和元年度 優秀学生賞受賞者一覧 * * * *

	日本機械学会富山賞 機械工学科5年 山本 翼		一般社団法人映像情報メディア学会 北陸支部優秀学生賞 電気電子工学科5年 山本 真嘉		公益社団法人日本化学会 近畿支部支部長賞 物質工学科5年 福嶋 佑太
	公益社団法人計測自動制御学会 北陸支部優秀学生賞 機械工学科5年 真柄 尚弥		電子情報通信学会 北陸支部優秀学生賞 電子情報工学科5年 土村 貴太		日本分析化学会中部支部 優秀高専学生賞 物質工学科5年 山口 綾友
	電気学会北陸支部優秀学生賞 電気電子工学科5年 斎輪 奈穂		情報処理学会 北陸支部優秀学生賞 電子情報工学科5年 兵田 憲信		全国高専土木学会近藤賞 環境都市工学科5年 岩崎 拓
	公益社団法人日本電気技術者協会 北陸支部優良卒業生 電気電子工学科5年 坪塚 達也		公益社団法人日本化学会 近畿支部支部長賞 物質工学科5年 中島 和		

Special Interview

～活躍する仲間～

令和元年度 キャンパスプロジェクト採択一覧

学年	学科	代表学生	テーマ	連絡教員
3	環境都市工学科	西 楽人	学生寮(南寮)駐輪場の風雨対策としての囲い増設	田安 正茂、金田 直人
2	環境都市工学科	忠住 純太	学生食堂の南側における屋外空間の整備	野々村 善民
5	電気電子工学科	山崎 未有	寄せ植え鉢をみんなで見守り育てよう!	秋山 肇
3	機械工学科	昆沙賀 充	校内美化	亀山 建太郎
5	電子情報工学科	道關 海斗	来校者向けの各種案内システムの開発	波多 浩昭
3	物質工学科	川端 優生	駐輪場をつくろう ~パート3~	辻野 和彦
5	電気電子工学科	杉本 大翔	災害時非常通信のための移動型太陽光電源システムの製作	東 章弘
3	電子情報工学科	鈴木 智也	校歌普及委員会	川上 由紀
2	電気電子工学科	根本 真響	全天球画像を用いた構内紹介サービスの開発	柳原 祐治
5	電子情報工学科	兵田 憲信	宣伝・広報を目的としたデジタルコンテンツ制作	小松 貴大
3	環境都市工学科	鈴木 敬太	SDGsを高専にも!!	佐藤 勇一

令和元年度 福井高専キャンパスプロジェクト概要報告

環境都市工学科3年 西 楽人

学生寮(南寮)駐車場の風雨対策としての囲い設置

今回の「学生寮(南寮)駐輪場の風雨対策としての囲い増設」の活動は、学生寮で生活している3年生5人で行いました。学科はそれぞれ違って、共通点は寮生ということだけでした。昨年度から始まったプロジェクトの継続ということで、今年度も申請を出し、活動をしました。活動の内容としては、昨年作った駐輪場の囲いを同じように作り、囲いの範囲を広範囲に広げました。目的であった囲いの設置は、昨年度活動をした先輩方や先生からのアドバイスを受け、自分たちで考え行動しました。プレゼンテーションでは様々な方からアドバイスや、感想をいただき、この活動をやってよかったなど感じることができました。また、学生寮で生活する学生からも感謝の言葉をもらい、活動を行ったことに達成感を得ました。来年度もこのプロジェクトを引き続き行えるように、今年度の活動で学んだことをしっかりと後輩たちに教えていきたいと思います。

環境都市工学科2年 忠住 純太

学生食堂の南側における屋外空間の整備

私たちは、学生食堂南側における屋外空間の整備を目的とした、福井県産の檜材を用いたテーブルとベンチの製作を行いました。

今回の製作にあたって、3DCADソフトを用いた詳細な設計図の作成、長期間の使用を考えた木材の腐食対策をコンセプトに作業を進めました。

最も苦労したのは3DCADソフトによる設計の段階です。木材の腐食対策や、様々な方向からの荷重を考えた設計にする必要があったので、何度も設計を見直しました。完成したものは、ホゾを用いた木組の構造にすることや、木材の繊維方向の断面を地面につけないような工夫を取り入れました。

また、木材加工の段階では、製作に使用した檜材が丈夫すぎて加工に時間がかかるという問題も出てきましたが、完成品は構造、材質ともに頑丈なつくりに出来あがりました。

今後福井高専の学食のテラスにて、多くの学生、職員の皆さんに使っていただきたいです。

Special Interview

～活躍する仲間～

電気電子工学科5年 山崎 未有

寄せ植え鉢をみんなで見守り育てよう！

プロジェクト代表の山崎です。この度、電気電子工学科の卒研グループ員で寄せ植え鉢のお世話をしました。プロジェクト採用が決まり、先生から「どんな鉢植えにしたい？」と聞かれた時に季節とは関係なくあれこれ注文を付けたことも今となっては懐かしい思い出です。パートナーとして協力頂いた「花ひろ本店」の皆様には色々お手数をかけたのではなかったか、と今頃思い当っている私たちです。(遅すぎ!)

鉢植えの顔であるアザレアつつじの花弁は薄い紅色でどちらかと言えば地味目なのですが、日が短くなり度々寒さが訪れる秋口の気候にもしっかりと咲き続けてくれました。一方のゼラニウムは目立つ色合いなのですが、それが故か虫さんに気に入られてしまい、時々お世話を怠ると葉に穴があいてしまうことがありました。

色々特色のある鉢植えの面々ですが、プレゼントの場で高専の皆さんとの気持ちが和む機会を提供できることを知りホッとしています。アザレアつつじは多年草なので、校内に植え替えして来年も花を楽しんで頂けたら嬉しいです。

機械工学科3年 昆沙賀 充

キャンパスプロジェクト

皆さんは自分の部屋が汚れていたらどうしますか？もちろん掃除するでしょう。それと同様に、校内で汚れている場所があればきれいにするべきだという思いからこのプロジェクトを始めました。今回私たちは、防火水槽内の水のろ過及び防火水槽周辺の美化を目的としてキャンパスプロジェクトに取り組みました。最初に草むしりから始めると、化石と化したゴミが次々と顔を出し高専の歴史を肌で感じました。それと同時に、次第にきれいになっていく防火水槽周辺を見ていると心まできれいになっていきました。その後水の透明度を調べ、自作のろ過装置を作成し、ソーラーポンプを設置する台を作りました。春先にはきれいな姿の防火水槽を見られるので、楽しみに待っていてください。〈追記〉ごみのポイ捨てはやめてください。もしポイ捨てを発見した方は亀山建太郎先生までご一報ください。

電子情報工学科5年 道關 海斗

案内システムの開発と今後の課題

現在の福井高専では、電車で通学・通勤されている人々は個人でJRの運行情報を取得し、イベント時等で外部の方々が校内にいらっしゃった際は教職員・学生が目的地までの道をよく聞

かれています。

こういった非効率なJRの運行状況の情報収集方法や、校内案内図がイベント時等で機能していないことは、学生・教職員の負担になっていると考えられます。そのため、一昨年度のキャンパスプロジェクトの一つである太陽光パネルの発電量の表示を行うシステムとARなどの新たな技術を用いてこれらを改善するとともに、学生の技術力の高さのアピールを目的に活動を行いました。結果として、LEDマトリックス上にJRの運行状況を表示するシステム、ARを用いて福井高専内の各施設の位置を表示するアプリの開発に成功しました。

しかし、テスト運用の実施ができていなかつたり発表会での様々な指摘もあつたりしたので、後輩たちには改善したものを実際に運用してくれることを願っています。

機械工学科2年 坂口 雅治

駐輪場をつくろう～パート3～を終えて

福井高専キャンパスプロジェクト2019において、野球部は駐輪場を製作した。この駐輪場は3年前から取り組み始めた。一昨年度はコンクリート土間、昨年度は単管パイプと波板を利用した屋根の一部を製作した。本年度のプロジェクトでは、安全面を考慮しながら3スパン分の駐輪場を完成させた。

このプロジェクトの成果として、3スパン分の駐輪場に部員のほとんどの自転車をとめることができるようになったことが挙げられる。また、近隣高校との練習試合の際は自転車で来ていただくことがより容易となった。そして、悪天候によりグラウンドが使えない場合でも素振りなどの練習が可能となった。当初は壁の製作を計画したが、安全性を最優先するためブロックやチェーンを利用して台風などの強風にも対応できるよう固定した。

野球部はこれまでにもトンボづくりや散水装置づくりなど、キャンパスプロジェクトで多くの支援を頂いた。このプロジェクトを通して、大変恵まれた環境で練習に励めている。野球部一同この環境に感謝し、福井高専に新たな歴史を刻んでいきたい。

電気電子工学科5年 杉本 大翔

災害時非常通信のための移動型太陽光電源システムを製作して

このプロジェクトでは、近年多発している災害を意識し、被災した場合の（災害時）非常通信に使用できる電源システムの製作を行いました。内閣府が定める防災基本計画では、災害時の移動系通信手段としてアマチュア無線が期待されていますが、電源が確保できない状態では使えません。そこで今回、太陽光パネルとバッテリーを搭載し、商用電源に頼らず電力供給でき、

Special Interview

～活躍する仲間～

且つ、簡単に持ち運びできるようにキャスターを取り付けたシステムを製作しました。そして、完成後にこのシステムを使ってアマチュア無線交信を試みたところ、長時間における運用も可能であることが実証されました。

災害は起きないことにこしたことではありませんが、万一、被災した際には、広域避難所でもある福井高専で、今回製作したシステムが非常通信のための電源として役立つものと信じています。避難訓練や報告会の際には、多くの方々から貴重なご意見を多数いただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

電子情報工学科3年 鈴木 智也

校歌を身近に

「福井高専の校歌、歌って！」といわれて歌える学生はどのくらいいるのだろうか。そして、滅多に触れることがない校歌をより身近に感じるためにはどうすればいいのか。これらを解決するために、校歌普及委員会では昨年に引き続き校歌をモチーフにしたリズムゲームの開発を行いました。昨年は初めての製作ということもあり、期待したものが出来ませんでした。そこで、昨年の反省点を元に今年は一から作り直し、より完成度の高いゲーム・筐体を作成することができました。報告会では、興味を持ってくださった方も多く、手ごたえを感じましたが、ゲームとして遊ぶためには不満足な部分が多く、ゲームUIや収録曲の増加など、改良しなければならないこともあります。今後はこのような点を解消して、まずは、新入生に向けての紹介を目指したいと思います。その後は部活やクラス単位でのイベントも企画するつもりなので楽しみにしていてください。

電気電子工学科2年 根本 真響

全天球画像を用いた構内案内サービスの開発

福井高専に初めて足を踏み入れた日、迷いませんでしたか？私は、このような思いから、本年度のキャンパスプロジェクトにおいて「全天球画像を用いた構内案内サービスの開発」と題し、約半年の間、福井高専構内を撮影して回りました。

本プロジェクトは、Google社が開発および公開を行っているグーグルストリートビューに類似した、福井高専オリジナルのストリートビューを作成し、来校者や福井高専を受験する受験生などが、広く様々な建物に分かれている福井高専を、迷うことなく移動できるようすることを目標に掲げています。

計画上、本年度は撮影のみを行い、来年度にベースとなるソフトウェアの開発に着手する予定です。ソフトウェアの開発には、撮影とはかなり違った苦労などがあると思われますが、チームメンバーと一緒に越えていければと考えています。

最後に、本プロジェクトでは、連絡教員の柳原先生をはじめ、学生課の方々などの協力を頂き、プロジェクトを成立させることができました。この場をお借りして、感謝の意を表したいと思います。

電子情報工学科5年 兵田 憲信

宣伝・広報を目的としたデジタルコンテンツ制作

今回のキャンパスプロジェクトでは、高専を学外に宣伝することを目的としたデジタルコンテンツ制作を行った。人の位置や姿勢を取得するデバイスを使用し、介入できる映像作品や、没入感の高い体感型ゲームを制作して高専祭で体験してもらった。また、昨年度は実施できなかったプロジェクトマッピングを実施することに成功した。体感型ゲームは高専祭の他、北陸技術交流テクノフェア、さばえものづくり博覧会などに出演することができた。特に、展示作品は子どもたちに人気で、活動を継続することで本校への入学を希望する中学生が増えるのではないかと考える。プロジェクトマッピングについては、実施結果から宣伝効果は高いと考えられるが、映像の制作や機器の設営には時間や費用がかかることから、継続的な実施には学校側の協力が必要不可欠である。活動は継続する予定だが、参加学生の卒業などにより人員不足となるため、今後は参加学生の募集を行いながら活動を行っていきたい。

環境都市工学科3年 鈴木 敬太

SDGsと高専をつなげるために

私たちは、今回『SDGsを高専にも!!』というタイトルのもと、福井高専キャンパスプロジェクトにおいて、様々な活動を行いました。SDGsとは、国連が定めた2030年までに達成すべき17の目標のことです。世界中でその重要性が唱えられており、鯖江市でも、ジェンダー平等を軸とした色々な活動が行われています。そこで私たちは、SDGsについて高専の学生に知ってもらおうと、この活動を始めました。

主な活動は『ポスターの掲示』です。もしかすると、すでに高専内においてSDGsのポスターを見たという方もいるかもしれません。工夫を凝らして、多くの方に見てもらえるようなポスターにしていますので、ぜひ立ち止まって見ていただけると嬉しいです。

また、そのほかにも、『イベントへの参加』や、『ホームページ』の作成など、SDGsを広めるために、多岐にわたってプロジェクトを開拓しています。今後ともご協力よろしくお願いします。

Special Interview

～研修旅行～

研修旅行について

機械工学科3年 伊藤 雅哉

研修旅行

3年生の行事で最も大きな行事である、研修旅行が終わり、約3か月経ちました。研修旅行が終わり、今現在に至るまでに、中間テストや冬休みなどの行事が過ぎましたが、未だに研修旅行の出来事を覚えています。機械工学科では、ヤマザキパン・JXTG株式会社・安川電機・三菱造船所・新日本製鉄に企業見学させて頂きました。どの企業も、日本の上位で活躍されている企業なので、とても興味深く見学することができました。

まず、どの企業に訪れても思ったことは、敷地が広いという事です。当たり前かもしれません、今回見学した企業は、日本や世界を相手に商売を行っています。なので、広大な敷地には、大きな工場があり、大量生産を行っています。例に、ヤマザキパンがあります。

コンビニやスーパーなどで、パンが売っているコーナーには、ほとんどの店でヤマザキパンが売られています。スーパーだけでも、福井県には何店舗もあります。その全ての店に毎日決められた個数のパンを供給しなければなりません。そうしないと、会社の信用が落ちてしまいます。

今回の企業見学で、どのようにして消費者と企業がつながっているのかを知ることができました。



電気電子工学科3年 伊部 賢人

いつもの仲間といつもと違う場所で

スーツケースを手にいつもの3Eの教室に向かうと、そこにはスーツを着て普段より大人っぽくっこよく見える男子と美しく大人びた女子がいました。このクラスメイト達とバスに乗り込み「向上心のないものは馬鹿だ」(夏目漱石作『こゝろ』より)という言葉を胸に、一週間の研修旅行が始まりました。

まず、一つ目の見学先であるFUJITECさんでは、会社の説明や業務内容を聞き、タワーの見学をしました。すると、見学が終わるころにはFUJITEC製のエレベータを探すほどファンになっていました。次に、二つ目の見学先である平田機工さんに向かい、モノづくりのための機械を作る過程を見学しました。この見学を通してモノづくりのためのモノづくりという新しい視点について考えさせられました。

この滋賀県での企業見学の後、阪九フェリーターミナルでフェリーに乗り九州に向け出発しました。フェリーが動いたときはとても感動し、甲板の上で大はしゃぎしました。いつもの仲間といつもと違う場所で過ごす約一週間はとても楽しく、このまま福井に帰りたくないと思えるほどでした。この思い出は一生の宝物です。



Special Interview

～研修旅行～

研修旅行について

電子情報工学科3年 宮川 夢空

研修旅行

3年生の研修旅行は10月末から11月の初めにかけて行われた。初めて着るスーツにドキドキしながら朝の学校に集まりこれから始まる6日間の研修旅行に胸を躍らせていた。

技科大に着くまで5時間という長い長いバス移動でも笑いが絶えずまだやるのってくらい人狼をして遊んだ。1日目は技科大の見学だけで終わる。夜の東京はとても明るくにぎやかだった。2日目からは企業見学を行った。午前中は日立グループの会社に行った。企業の働き方がとても興味深く将来の参考になった。午後からteamlabに行きプロジェクトマッピングを楽しんだ。たくさんのアートを歩いて見ているうちに現実から離れたような不思議な感覚になった。その夜に一部のクラスメイトでローカルな温泉を探して入ったのはいい思い出だ。3日目はほとんど観光だった。雷門に行き、スカイツリーに上りディズニーシーに行った。その日はちょうどハロウィンだったのでディズニーシーではコスプレをしたカップルであふれかえていた。3日間の研修旅行は終わり、次の日から自主研修となり各グループに分かれてそれぞれの旅行を楽しんだ。

物質工学科3年 松本 眞大

研修旅行

3Cは、1日目は第一三共クリュージアムと花王すみだ事業場に行きました。第一三共クリュージアムでは、館内のゲームやシアターを通じて薬の作り方、人に対しての様々な作用や社会にどのように貢献しているのかを学びました。花王すみだ事業場では、3つの展示ブースを見学し、洗浄・掃除・入浴・化粧などの文化や、花王の石鹼や洗剤等の歴史、現在販売されている商品に活用されている技術とユニークなデザインを学びました。どちらもこれからの社会を豊かにするために沢山の技術を日々研究していく、自分の研究者への将来を考える大事な経験になりました。

2日目、3日目は関東近辺を散策しました。築地では、高い海鮮丼とハムカツを食べて、横浜では、豪華な中華料理、お台場では、絶品のローストビーフやタコスなど福井では、食べられないようなおいしいグルメを食べることができて、最高でした。また、友達と横浜のカップヌードルミュージアムに行き、自分だけのオリジナルのカップラーメンを作れて良かったです。

研修旅行をクラスのみんなで一緒に歩いて本当に良かったです。担任の松野先生と添乗員の川島さん、そして関係者の皆さん、本当に有難うございました。



Special Interview

～研修旅行・校外研修～

• 研修旅行について •

環境都市工学科3年 椎林 惣一郎

のむら再生工場の旅

テーマは「再生」。昭和戦後復興、平成災害復興、私達の時代、令和はインフラ再生。名伯楽野村監督のふるさと京丹後市を抜け、豊岡『コウノトリの郷公園』へ。農村生態系再生の先進地。国が地域連携で整備の加賀湿原で学習。百年供用の余部鉄橋は新技術で更新、橋脚一部を保管展示。観光立県鳥取で夕暮れ砂丘のダイナミックな景観を堪能。米子城址や国宝松江城は歴史・文化の再生、中海・宍道湖の水環境再生を『認定NPO法人自然再生センター』で学習。季節外れの黄砂で大山を見られず。湖に沈む夕日の先の出雲大社で心の再生。一畑ホテルの朝はしじみ漁を一望。戦記物やゲゲゲの鬼太郎で有名な水木しげるロードで置物と勘違いした砂かけ婆が突然動き出し、驚いて飛び跳ねた友の姿が印象的。石見銀山で栄華を極めた街並み再生。はつかいちエネルギークリーンセンターで一般廃棄物のサーマル再生利用施設を見学。大和ミュージアムで映画アルキメデスの大戦を優に超える十分の一スケールの戦艦大和を多角的に撮影。沈没した大和残骸の海底測量調査の展示、調査結果は映画の冒頭シーンに再生。多くの方々にお世話になり、経験を活かして勉学に励みたい。山陰への福井からのツアーもお勧め。

• 校外研修について •

電子情報工学科2年 浅利 瑠己有

校外研修について

去年の秋ごろ、僕たち2EIIは校外研修で日本電産テクノモータとオーディオテクニカの二社を訪問した。日本電産テクノモータではモータを、オーディオテクニカではマイクやオーディオなどに使われている技術を学んだ。これを通して、僕はすごく感動した。「こんなに小さくて可愛い部品が世の中を支えているのか」と。「こんな技術が、こんな視点から生まれているのか」と。例えば、マイクは人の聴覚に視点をあてられて、どれだけ音響をよりよくするかと作られていたし、モータは環境保護に目を向けたうえでいかに効率よく動かすかと作られていた。

そんな環境の中生まれた彼らは出荷されて、世の中を支えているのだ。利用者の我々に中々目を向けてもらえない。「エアコンの中では大きなモータが回っていて、それが風を送っているんだ」なんて意識しながら、エアコンを利用する人はそうそういないだろう。しかし、彼らは間違いなくそこにいるのだ。

だから、そして技術者を目指すものとして、僕はそれを意識しようと思った。世の中を支えている、そしてこれからも発展していく世界に必要不可欠な彼らの存在を。



Special Interview

～校外研修～

環境都市工学科2年 池上 真司

校外学習について

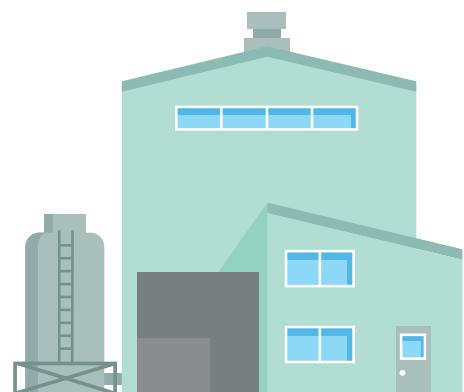
今回の工場見学では新幹線南越駅建設現場と株式会社日本ピーエスに行った。

まず、南越駅を見学した。そこで躯体工事ということを学んだ。躯体とは主にコンクリート構造物のことである。土木構造物では橋の土台となる橋脚や、道路や宅地などでみられる擁壁であり、造成工事では排水構造物等で使われている。

次に株式会社日本ピーエスでは会社の内容を聞き、工場現場を見学した。日本ピーエスはプレストレスト・コンクリー

ト橋を造っている会社である。プレストレスト・コンクリートとは、鉄筋よりも高強度のピアノ線(PC鋼材)を使用して製造するコンクリートで、通常のコンクリートよりも強いため、橋を長くしたり、部材を薄くすることができます。

最後に今回の工場見学で思ったことはプレストレスト・コンクリートという僕の知らない構造の仕方があって、まだまだたくさん僕の知らないことがあり、他にはどのような工夫をした構造があるのかと興味が沸いた。工場見学で学んだことをこれから自分が学ぶことに最大限活用して、将来立派なエンジニアになれるように努力していくこうと思った。



令和元年度 第2学年校外研修先一覧

研修日	学 科	研 修 先	引 率 者
10月30日(水)	機 械 工 学 科	株式会社エイチアンドエフ 株式会社松浦機械製作所	宮本 友紀 加藤 寛敬
	電 気 電 子 工 学 科	レンゴー株式会社 金津工場 パナソニック株式会社インダストリアルソリューションズ社	柳原 祐治 秋山 肇
	電 子 情 報 工 学 科	日本電産テクノモータ株式会社 株式会社オーディオテクニカフクイ	門屋 飛央 高久 有一
	物 質 工 学 科	第一稀元素化学工業株式会社 酒井化学工業株式会社	松井 一洋 西野 純一 常光 幸美
	環 境 都 市 工 学 科	飛島・本間・ニシムラJV 新幹線南越駅作業所 株式会社日本ピーエス	山本 裕之 阿部 孝弘

Special Interview

～文化体験日～

・文化体験日について・

F2 和田 虎志郎

文化体験日で得られた物

私たちF2クラスは遠足でラポーゼかわだへ行きました。私はBBQをしたことが無かったので、少しづくわくしながらラポーゼかわだに向かっていたのを覚えています。

ラポーゼかわだに到着してからは、まずBBQをしました。BBQでは複数人で一つの網を使って肉や野菜を焼いていたので、余った肉を誰が食べるかジャンケンで決めたりして、コミュニケーションを取りながらBBQを楽しむことが出来ました。

またBBQの後の自由時間では、ラポーゼかわだに来ていたほかのクラスの人と遊んだり、近くの山の湧き水を探しに行ったりして、普段とは違うアクティブな時間を過ごすことができました。行く前はBBQが一番楽しみでしたが、行った後はBBQ後の自由時間があまり関わる事の少ないほかのクラスの子とも仲良くなることができて一番印象に残っています。

2年生から5年生まではずっと同じクラスなので、いろいろな学科の人が入り交じっている1年生のクラスの中に、このような交流を深める機会があって本当によかったと思います。1年生の生活は後少しで終わってしまいますが、遠足での出来事はずっと忘れないと思います。

F4 北川 翔大

文化体験日に金沢へ

私たちF4クラスは、電車に乗って金沢へ行きました。金沢に着いてからは数十分ほどクラスのみんなで金沢駅周辺を散歩して、金沢城公園で写真を撮りました。散歩中に一人腹痛で帰ったためクラスのみんなで写真を撮ることができなかったのは残念でした。その後は自由行動で、私は友達と近江町市場に行きました。近江町市場には生牡蠣や金箔ソフトクリームなど様々な食べ物がありとても美味しかったです。

その後はバスで香林坊に行きました。香林坊では古着を見るなど様々なことをしていると時間がすぐに過ぎました。金沢にはたくさんの外国観光客や修学旅行生がいて、さすが観光名所だなと思いました。金沢を歩くだけでもとても楽しく、自由時間がとても短く感じました。文化体験日に金沢に行き、金沢の文化に触れることにより、クラスのみんなの仲がさらに深まったと思います。私は文化体験日でたくさんの思い出を作ることができ、非常に充実した一日を過ごすことができました。金沢には兼六園などのたくさんの観光スポットがあるので文化体験日で行けなかった場所は、また金沢に訪れることがあつたら見に行きたいです。



Special Interview

～中学校だより～

建学の志「徳の道」のもとに**大野市 尚徳中学校**

本校は、昭和37年に東部中学校と阪谷中学校を統合して創立されました。大野市の北東部の緑豊かな自然環境の中に位置しています。昭和40年には、当時の生徒が、校庭の周りにソメイイヨシノやヤエザクラを植樹し、本校の春のシンボルとなっています。平成26年には、校舎南の土手に「SHOTOKU」の文字を芝桜で描き、春になると緑地にピンクの文字が鮮やかに浮かび上がります。

現在、全校生徒数は85名です。本校には、建学の志「徳の道」(学問に親しみ果敢に行動せよ 喜び合う人との交わりを重んじもって己の人格を陶冶せよ)があります。学

間に親しむことと、人と人との交流を通して社会性を身につけることを目指しています。この建学の志のもと、3年前からは、東京への修学旅行で、大野の特産物を紹介し販売する活動も始め、毎年完売することができます。

また、三分の一(さんぶんのいち)卒業式という本校特有の行事があります。3年生が卒業した後に、1年生が幼かった1年間を終え、4月からは新入生を迎える先輩となるためのけじめの式です。この式が終わると学校全体が新年度を迎える雰囲気になります。小さい学校の強みを生かして、いろいろな活動にチャレンジしている学校です。



Special Interview

～退職にあたって～



電気電子工学科 大久保 茂

退職にあたって

福井高専に赴任したときから、2020年3月に定年退職を迎えることはわかつっていましたが、いざとなると在原業平の辞世の句「ついに行く道とはかねて聞きしかど 昨日今日とは思わざりしを」の心境です。

私が、福井高専に初めて来たのは入学試験を受験したときで、試験後正門のところで学生運動のデモをしていたのを今でも鮮明に覚えています。本校の電気工学科を卒業して、大学院まで進学しました。大学院修了後、郵政省(現:総務省)の事務次官より採用通知をいただき、その4年後に「文部省へ出向を命ずる」との辞令により、平成元年4月に福井高専に戻っていました。つまり、平成の時代のほぼ全期間、福井高専で勤務したことになります。

本校で教鞭を執ってから、実に多くの学生と接することができ、約2000人の学生と出会ったと思います。人との出会いはその人の人生を左右する場面があります。また、教員の言動は少なからずとも学生の将来に影響を与えることがあるので、その責任の重さを常に実感していました。この31年間の教員生活で知り会った学生、クラス担任、クラブ活動等いろいろな関わりの中で多くの人脈を築くことができ、その一人ひとりが福井高専からいただいた貴重な財産です。

今後は、少しだけ生活のスピードを緩め、生活の時間軸を長くし、生き方全体を年齢に合わせるようにして、残りの人生を楽しみたいと思っています。

最後に、在職中に数々のご厚情をいただきました多くの教職員の皆様方へ心から感謝申し上げると共に、これからは一OBとして福井高専の教育・研究活動が益々発展するよう微力ながらスタンドから応援します。



環境都市工学科 山田 幹雄

22年間の“こんにちは”に深謝！

構内のあちらこちらでごく自然に、ごく当たり前に交わされる“こんにちは”的挨拶。これが本校で学ぶ人たちの、そして、本校に勤める人たちの伝統に培われた心配りの所作。

1998年3月下旬、専攻科の設置を機に14年間勤務した金沢工業大学を辞し、改修前の環境都市工学科棟3階の一室にて荷をほどきました。場所が変われば状況も異なる…蛇口に手をかざしても、小便器から離れても自動で水は流れない。ガラス戸の前で立ち止まつても自動で開閉しない。カラー複写機の所在を尋ねたら、“それって何？”の返答。etc…驚きでした。

4月の前期授業開始を控えて室の整理を急いでいた折、あることに気付きました。春季休業中にクラブ活動で登校していた学生諸君が、私とすれ違うたびに笑顔で“こんにちは”的の発声。教職員の皆さんもまた然

り。ただただ感心しました。

高校生、大学生、大学院生の頃の己を振り返ると、特定の人たち(担任、授業担当教員、研究指導教員)へは礼を逸しないよう注意を払っていましたが、あらかたは会釈での応対でした。相手によって仕草が違ったのは、大学に勤めてからも同じでした。ですから、41歳にして初めて「普通と思い込んでいた振る舞いに粗相がある」と、目から鱗が落ちる衝動に駆られたのでした。その刹那、本校へいざなっていただいたご縁に歓びを覚えるとともに、ここ数日間の出会いに深く感謝いたしました。

以来、“こんにちは”的の声掛けには“こんにちは”的の返事に努めてまいりましたが、思案にふけりながらの歩みでは心無いさぞかし失礼な素振りであったことでしょう。この期に及んで、深くお詫び申しあげるしたいです。

自発的に口にする挨拶は、やる気や元気の源となります。そして、源の絶えないところには幾つもの可能性が顕在します。福井工業高等専門学校のさらなる発展を信じてやみません。

20余年にわたるお付き合い、誠にありがとうございました。



環境都市工学科 阿部 孝弘

最後にもう1度「VSOP」

担任をしたときに学生にVSOPの話をした。卒業間際に話していたと思う。この話は私が20代最後の年に恩師から聞いた話を基にしている。VSOPはVery Special Old Paleでも、Very Special One Patternでもなく、人が仕事をするときに、20代はVitalityで仕事に臨み、30代では仕事にSpecialtyを、40代ではOriginalityを持てるようにし、そして50代ではPersonalityで仕事をせよ、というものである。青武台だよりや青塔にも贈る言葉として書いた記憶がある。

昨年末に4回目の担任をしたクラスの同窓会があった。その時に、卒業以来会っていないかった卒業生が参加してくれて「先生が卒業するときに言われたVSOPを念頭にして仕事をしていますよ」と言ってくれた。うれしかった。

20代は「何でもやってみよう」、30代は「得意分野を持とう」、40代は「自分にしかできないことを見つけよう」なのだが、50代ではPersonalityでということが当時50代になったばかりの私にはうまく例えられていなかったように思う。還暦を過ぎた今、この最後の青武台だよりの稿で説明をしておきたい。Personalityで仕事をする。これはマネジメントをするということであると感じている。任せられる仕事は人に任せて(任せられる人材を見抜く)、その結果に対して責任を取り、多様な価値観をまとめ上げて成果を得るということになるだろう。言い換えれば、ドラッカーが言っている「リーダーシップを仕事ととらえる」ということになると思う。

さて、VSOPにない年齢をどう過ごすかという答えをこれから見つけていきます。社会や人のために何かをするということを念頭に置いて過ごせば何か見つかるのではないかと思います。41年間ありがとうございました。皆様に心より感謝申し上げます。

Special Interview

～退職にあたって～



事務部長 澤田 利夫

『我が人生に悔いなし！』といつて終わりたい

昨年60歳の誕生日に、「人生の節目の歳を迎えた」と思った。

常勤職員として42年間、過ぎてしまえば、あつという間だった。福井高専で定年を迎えることに感謝したい。福井という土地柄なのか、福井高専には昭和の時代の人間関係、少し面倒だが、思いやりを感じさせる空気があるように思う。福井の皆様、本当にありがとうございました。定年後は、郷里に戻ってもうしばらく働くことを考えています。

振り返ってみると、いろいろな人と会って、それらの人に支えられて此処まで来られたのだとしみじみと思う。過去の記憶は途切れ途切れで、すっかり忘れていることもあるのだが。豊田高専で成人を祝っていたいたときに校長先生から「處人曖然」と書かれた色紙をいただいた。その意味を調べ、今でもその言葉は忘れずに心の内にある。

記憶とは、いい加減なもので都合の良いことしか覚えていない。いなか覚えではないけれど、思い出せないだけなのかもしれない。きっと、記憶を広げられるテーブルは、個人差はあるにしても、限られているからだろう。最近は、とっさに名前が出てこない、漢字が分からぬなどということとも増えてきて、人生の節目を迎えるということはそういうことなのかと独り納得している。

生きていくために必要なことは何だろうかと考えてみると、詰まるところ「好奇心」ではないだろうか。知らないことを知りたい、その気持ちが知識や経験を蓄積し、行動力の基盤となるのだろう。

4月に郷里に戻ったとき、きっとそこには新たな世界が待ち受けているのだろう。好奇心とこれまでの蓄積がそこで生きていくことに活かせたら、いい人生を送っているときと思えるだろう。



総務課施設係 内田 郁夫

定年にあたって

日常の忙しさから定年の歳をあまり意識していませんでしたが、原稿の依頼を受けて改めて定年を実感することになりました。

昭和58年4月に福井医科大学施設課に採用されました。その年の10月に附属病院の開院があり、かなり忙しかったですが、上司や先輩に仕事を教えてもらいながら日々充実していたように記憶しています。その後法人化や大学統合があり、環境整備課と施設企画課の両方で仕事をさせていただきました。福井医科大学・福井大学に在職した33年6箇月の間に、松岡キャンパス・文京キャンパスにおいて、施設整備事業の基本計画立案・実施設計積算・現場監理から日常の維持管理業務、施設企画事務に至るまで幅広く業務を経験させていただきましたことに感謝しております。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

そして、平成28年10月に福井高専総務課施設係に異動になりました。

高専の施設係では予算要求・入札及び契約事務、自前設計、現場監理、日常の維持管理等の業務を一貫して実施する等幅広く経験でき、自分にとってやりがいのある職場であることに気づきました。まもなく福井高専に来て3年6箇月が経過しますが、この間さまざまな御指導をいただき、改めて福井高専で定年を迎えることに感謝を申し上げる次第です。37年間施設系の仕事を経験させていただき感じることは、現場監理等で問題が発生し大変なこともあります、建物等は形に残りますので、ある意味やりがいのある仕事だと思います。

最後に、自分のような力不足の者が何とか定年まで辿り着くことができたのも、上司・同僚・先生方の御指導と御鞭撻の賜物で、深く感謝申し上げます。37年間本当に有難うございました。



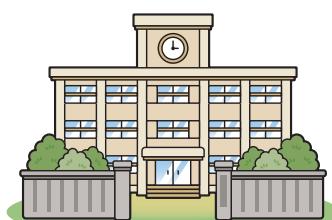
教育研究支援センター 片岡 裕一

退職にあたって

38年前 前勤務先の鈴鹿高専庶務課長から、突然呼び出された。理由を聞いても答えてもらえずドキドキしながら指定の部屋まで出向くと「福井高専の化学系技術職員に空きができた、面接試験が有るが受けてみないか」との話でした。面接を受けて受け入れてもらえない君も居づらいだろうから先生方には黙って休暇を取りとの指示、覚悟して三重の地に赴いたものの、福井に戻れるとなればそれはそれでうれしかったことを覚えています。幸いにして面接を無事通過し福井工業高等専門学校に勤務することになりました。

本校では工業化学科付きとして採用され、学生実験が主な業務でした。

以来、物質工学科への改組や、技術職員のセンター化などにより私の置かれた環境や業務も大きく変わりました。定年を迎えていろんな事が走馬灯のように頭の中に浮かんできました。いずれは君の時代が来ると言しく指揮された先輩技術職員のこと、結局「私の時代」は来ませんでしたが。「自己研鑽は積み重ね、減ることは無いのだから積み重ねよ」と温かく緩やかな成長を見守っていただいた諸先生。ミスをしても許していただいた事務部の方々。あまり、深くは考えて来ませんでしたが、今となれば皆様のご支援が有ればこそ、今日の私が有ったことがわかります。還暦を迎えて退職となりますのが還暦は人生のリスタート。迎える4月からは新採用の職員のつもりで、本校に貢献できるよう努めます。体力以外は42年前の自分自身よりは多少なりとも向上しているつもりですので、従前に増してご指導ご鞭撻を宜しくお願ひします。長い間ありがとうございました。そして残された5年間よろしくお願ひします。



~学校通信~

令和元年度 福井工業高等専門学校卓越した学生の表彰及び第2回学生表彰受賞者一覧

福井工業高等専門学校卓越した学生

電気電子工学科5年 | 山本 真嘉 環境都市工学科5年 | 内藤 祐大

校長特別賞

第54回全国高等専門学校体育大会(個人)

水泳部	環境都市工学科3年	山口 英真	・4×100mフリーリレー 優勝	・50m自由形 優勝	・100m自由形 優勝
	環境都市工学科3年	青山 開	・4×100mフリーリレー 優勝	・50m自由形 2位	・100m自由形 2位
	電気電子工学科3年	井上 優良	・4×100mフリーリレー 優勝		
	電子情報工学科3年	山田 耕太郎	・4×100mフリーリレー 優勝		

2019全日本ARDF競技大会(個人)

アマチュア無線研究会	電気電子工学科2年	根本 真響	・スプリント競技M19クラス 優勝
	物質工学科4年	川井 麻矢	・クラシック競技W19クラス 2位 ・スプリント競技W19クラス 2位
	環境都市工学科4年	酒井 大翔	・クラシック競技M21クラス 2位

第30回全国高等学校アマチュア無線コンテスト高校マルチオペレータ 7MHz部門・優勝(団体)

アマチュア無線研究会

校長賞

4年間学業成績優秀者

環境都市工学科5年 市橋 有咲 環境都市工学科5年 内藤 祐大 水泳部 野球部

第54回北陸地区高等専門学校体育大会優勝(個人)

水泳部(400mメドレーリレー)	環境都市工学科5年	定兼 拓永	物質工学科3年	西端 千遼
テニス部(男子ダブルス)	物質工学科4年	内田 大智	電気電子工学科3年	雨森 正修
剣道部(女子個人)	物質工学科5年	佐々木 まどか		

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2019 東海北陸地区大会技術賞及び特別賞受賞

Super Silvers	機械工学科3年	松山 亮太	機械工学科4年	田中 聖二
	機械工学科4年	高木 佳祐	機械工学科4年	竹内 遼太郎
	機械工学科4年	高畑 健人	機械工学科3年	戸井 康貴
	電気電子工学科4年	中原 伸悟	環境都市工学科2年	大久保 洋平

第16回全国高等専門学校デザインコンペティションAMデザイン部門「審査員特別賞」受賞

Fitossチーム	生産システム工学専攻1年	渡辺 虎生太	生産システム工学専攻1年	松村 大輝
	環境システム工学専攻1年	三池 寧弥	環境システム工学専攻1年	檜木 泰宏

北陸イノベーショントライアル2019キャンパス部門「優秀賞」受賞

プログラミング研究会	電子情報工学科3年	佐野 友亮	電子情報工学科3年	小杉 竜矢
	電子情報工学科3年	石川 晴基	電子情報工学科3年	鈴木 琢人

獎勵賞

1年間学業成績優秀者

卒業実績優秀者						
環境都市工学科5年	岩崎 拓	環境都市工学科5年	山本 花凜	機械工学科4年	松原 将輝	
機械工学科4年	岡花 敬太	機械工学科4年	森川 凱都	機械工学科4年	三田 大智	
電子情報工学科4年	安達 一生	機械工学科2年	谷口 匠	電気電子工学科2年	矢路 翼	
電子情報工学科2年	竹島 駿介	物質工学科2年	伊部 実由布	環境都市工学科2年	大久保 誓也	
環境都市工学科2年	大谷 悠莉					

TOEICにおいて成績優秀者

電気電子工学科5年 木下 諒星 電気電子工学科5年 谷口 真一 物質工学科5年 福嶋 佑太

令和元年度 学校行事写真



ロボコン地区大会



ロボコン全国大会



英語プレコン全国大会



高専デザコン in 東京



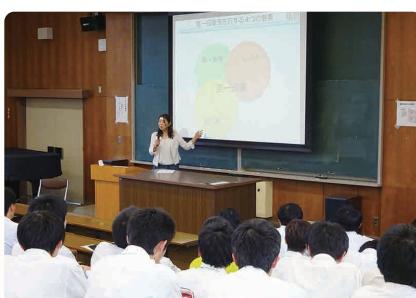
全国高専プロコン



北陸地区高専体育大会結団式



薬物乱用防止セミナー



服育講演会



弁論大会



税と社会保障の講演会



キャンパスプロジェクト報告会



校長表彰

編集後記

本科5年生、専攻科2年生の皆さん卒業または修了おめでとうございます。本号では、卒業生、修了生をはじめとした様々な活動で優秀な成績を修めた学生や、キャンパスプロジェクトのような活動へ挑戦した学生の言葉がたくさん紹介されています。身近な先輩や後輩や同級生の知られざる素顔に驚いたのではないかでしょうか？新年度も、皆さんの活躍をたくさん紹介できることを楽しみにしています。(千徳)

青武台だより

独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校
発行日：令和2年3月19日

お問い合わせ

福井工業高等専門学校
〒916-8507 福井県鯖江市下司町
TEL:0778-62-1111